

2024年7月

第166号

ぱれっと



㈱北日本ベストサポート

TEL 018-883-1888

「どうする地方創生」

6月3日「秋田魁新報」の第一面のトップに「希望」最下位どうする秋田」と題する東京の「ライフフルホームズ総研」の調査研究による「地方創生に関するレポート」が発表され、10年後の地方を考えたときの「地域の希望」と「人口増減率」の相関関係を示すマトリクスが示され秋田は将来の「希望」が全国最下位というショッキングな指標が掲載された。県民が希望を持ってない県との認識を示したものである。

因みに、希望を持てる都道府県の上位には沖縄県、東京都、福岡県などが入り、下位には秋田県、青森県、山形県などが入っている。

ここで、人口の社会的増減にかかわる要素として地域の「寛容性」を指摘し、その要素として芸術・文化・スポーツなどの遊びに着目しその総合したものとして「希望」を上げている。下位県では「地域に住む人が自らのまちの未来に対して諦めている」状況にあり、「地元への定住」や「挑戦」「地域への貢献」「若い世代への応援」に乏しく、人口減少→「地域の希望」低下→人口流出→人口減加速→「地域の希望」ますます低下という負のスパイラルが起きているのではないかとし、秋田は10年後もっと寂れていると思って「希望」を持っていないのではと述べている。

沖縄県が「希望」最上位にある理由は、県民性なのかどうか判然としないが、東京一極集中は長い間指摘されてきたところである。東京には 1、働く場所や職業に選択の幅が広い 2、遊ぶ施設が多い(ディズニーランド・芸術劇場・シアター・デパート・飲食店等々)3、個人の自由度が高くプライバシーが侵されにくいなどの面がある。一方、1.人が多すぎて人間砂漠 2.家賃など物価が高い 3.通勤に時間がかかる 4.個人で住宅を購入するのが困難になってきている 5.自然との触れ合いが少ないなどの弱点もある。全国的には人口減少が進んでおり将来の年金制度の崩壊が懸念される。

これからの秋田「希望」の持てる人口増加を目指すため「まず秋田の良さを認識する必要がある。小・中学校の学力テストでは数学・国語などで全国3位以内の高成績を上げ、秋田国際教養大学の受験倍率、高偏差値など教育面での高い評価を受けている。また、観光資源として十和田湖・八幡平国立公園、田沢湖・乳頭温泉郷、男鹿半島など風光明媚な地域が多い。大曲の花火・秋田の竿燈や農作物・お酒など高品質の地場産業があるなど小東京化を目指すのではなく秋田の魅力を結合させ魅力向上を図りたい。人口減少に歯止めをかけるには1. 女子の働く場の確保と環境整備 2.子育て支援(1)子は地域発展の宝として全体で支援する(2)女子の育児休暇・男子の子育て支援強化、(3)児童手当・児童扶養控除の拡大(4)父母など同居による育児支援先に補助金支給するなど手厚い子育て支援策を講ずるべきである。母親と子供を宝とする希望社会を構築したい。

『人望』で惹きつける経営者

元慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

大切なのは権力ではなく「人望」だ

このごろ社長や会長が人気商売的に見られる風潮があるのではなかろうか。社長、会長について人物、人柄ということばが使われるより、権力・組織の長という立場が人を牽引する力の源のように言われてもいる。

それはいろいろなことに手間はぶきをしない、人の世話をすることを面倒がらない、そして深い溢れんばかりの教養をもって仕事への意欲を呼びさましていくような人柄の人物が減ってきたということだろうか。大切なのは人気や権力といったものでなくて「人望」なのではないか。そうあってほしいとわたしは思っている。

豪毅あるいは可愛気、ゆたかさ、ふかしあがった蒸しパンのような温かみ、それが人柄を彷彿とさせる人望をつくるのではないだろうか。そしてその人望に評判がたち、それがつけたされていって司馬遼太郎さんのような人間の歴史がつくられ伝わっていくのではないだろうか。

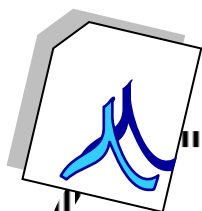
たとえば、いま手紙を自筆で書く経営者がどれだけいるだろう。そうでないのは筆無精ではなくて怠け者なのだろう。観察力の鈍ってきている人も少なくない気がする。それは真剣に学んでいなかったり、真理の探究、哲学の研究が不足しているからではないのか。眼に曇りが感じられるのだ。会合に出ても義務的、事務的、セレモニアルで実質を伴っていない。参加者がお互いの肚を開いて、柔軟な思考力で刺激し合う機会にしたいものだ。

好ましい人柄の人物は誰とでもコミュニケーションをし、深め、教養を蓄えながらひけらかさずに、アンテナは高く姿勢は低く、何事にもチャレンジャブルだ。見えないところで学びを重ねている人は意欲満々で、謙虚さは人一倍ある。

経営やマーケティングは、日頃の勉強を丹念に蓄えていってマーケットやお客様をびっくりさせることが大事だ。わたしは仕事柄、流通業の人たちとよく話し合うが、意外な喜び、感動を呼ぶサービスがまだまだ薄いと思っている。

ハートレス社会に近づいていっているのではないかと気にかかる。良心の形成どころか怠惰心が育成され、嫉妬、告げ口、いじわるがはびこる社会になってしまう。人間は正道を闊歩したい。おおらかで正しいことに自らの信念を向けていこうではないか。

【「人を惹きつける経営」より】



ウィリアム・スミス・クラーク (アメリカ人農学教育のリーダー)

- 1826年7月31日 医師のアサートン・クラークを父、ハリエットを母とし、マサチューセッツ州に生まれる。
- 1844年 アマースト大学に入学。
Phi Beta Kappa(米国最古の学術系名誉団体)会員となる。
- 1848年 大学卒業。ウイリントン神学校で化学の教授となる。
化学・植物学を学ぶべくドイツのゲッティンゲン大学へ留学。
- 1852年 ゲッティンゲン大学で化学の博士号取得。
アマースト大学教授となる。
- 1853年 新設された科学と実践農学の学部長となる。
マサチューセッツ農科大学の第3代学長に就任。
- 1876年(明治9年)7月 日本政府の要請で札幌農学校の教頭に就任。
(実質的には校長、マサチューセッツ農科大学を1年休暇として来日)
- 1877年5月 米国へ帰国。マサチューセッツ農科大学学長退任。
- 1886年3月9日 帰国後新規事業を計画したが失敗、失意の中、59歳で死亡。
さっぽろ羊ヶ丘展望台にクラークの像がある。
「少年よ、大志を抱け」の言葉は有名。

オススメの BOOK



「みんなの青春」(思い出語の50年史)

著者 石岡 学 発行所 生き延びるブックス(株)

著者は1977年生まれ。京都大学総合人間学部卒業。現在同大学院人間・環境学研究科准教授。

「青春とは」といえば、サミュエル・ウルマンの「心の若さである」が有名だが、本書は石原慎太郎から現代のアイドルまで幅広く青春をどう感じ過ごしてきたか、あるいは青春をどう捉えていたか、幅広い年代や職業などそれぞれ違った環境のもとでの感想を聞き出している。

私たちにもそれぞれの青春時代はあったと思うが、その青春時代とはなんだったのだろうか。それぞれの歴史や環境の違いから感じ方にも大きな違いがある。幾つになってもサミュエルの言っている若々しい心を保ってゆきたいものだ。

2024年7月3日新紙幣発行！！

デザインを一新した新紙幣がいよいよ発行されます。そこでお札についてのあるこれをご紹介します。



新紙幣の肖像となった3人は、1万円札が渋沢栄一、5千円札は津田塾大学の創設者、津田梅子。千円札は「近代医学の父」の北里柴三郎です。

誤って破ってしまった紙幣は、日本銀行の本支店にて次の基準で新しい紙幣と交換できます。

- ★全体の2/3以上が残っている・・・額面全額
- ★全体の2/5以上2/3未満が残っている・・・額面の半額
- ★全体の2/5未満しか残っていない・・・交換不可

アルファベットのI（アイ）とO（オー）は、数字の1、0と混同しやすいため、お札の番号には使われていません。

紙幣のコピーは法律で禁止されています。「ユーリオン」と呼ばれる模様があることで、コピー自体できない仕組みになっています。

お札のデザインは、新しい偽造防止技術を取り入れるため、約20年ごとに変えています。今回は、お札を左右に傾けると肖像画の顔の向きが変わる3Dホログラムが取り入れられています。

新紙幣対応の注意点

新紙幣発行に便乗した詐欺に注意しましょう。「今の紙幣が使えなくなる」などうその情報にご用心ください。

【編集後記】

今回の「ぱれっと」で秋田県が全国で一番「希望」のもてない県としてショッキングな報道がなされ、県民の一人としてなんとか早急に打開策を講ずる必要があると感じたが、最も希望の持てる県として「沖縄県」が紹介されている。

しかし、6月23日の日経新聞「春秋」欄では全国で最も子供の貧困率が高いのは沖縄県で全国平均の2倍以上となっていると述べられている。それでも県民が力を合わせて支えあいながら将来に希望を見出しているのだろうか。

秋田県民も秋田で生まれ、秋田で育ったこの「郷土を愛する心」を持ち一歩でも前進し希望の持てる社会を築いてゆきたいものだ。